

いきいき健康生活

鴻巣市広報「かがやき」 平成21年11月15日号 掲載

肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌ワクチンは、高齢者の肺炎の原因となる病原体の中で、最も頻度の高い「肺炎球菌」という細菌を狙った予防ワクチンです。当然、肺炎球菌以外の微生物による肺炎の予防効果はありません。肺炎球菌によって引き起こされるいろいろな病気(感染症)を予防するワクチンです。

日本人の死因の第4位が肺炎です。高齢者を中心に肺炎で亡くなる人は年間8万人に達します。インフルエンザにかかった高齢者の1/4が引き続き細菌性肺炎になるとも言われており、中でも肺炎球菌によって引き起こされるものが一番多いため、ワクチンによる予防が重要です。

近年、ペニシリンなどの抗生物質が効きにくい肺炎球菌(耐性菌)が増加していると言われています。肺炎球菌ワクチンは、このような耐性菌にも効果があります。

肺炎球菌には感染する機会の多い23種類の型があり、これらがすべての肺炎球菌による感染症の8割ぐらいを占めています。1回の接種で23の型ほとんどに対し、有効な免疫ができます。

この免疫は5年以上の長い間持続します。65歳以上の方、心臓や呼吸器に慢性疾患のある方、糖尿病の方、腎不全や肝機能障害のある方、脾臓摘出など脾機能不全のある方などに、インフルエンザの流行時に合併症である肺炎を予防する意味でもワクチン接種が推奨されます。

肺炎球菌ワクチン接種後の副作用として、注射部位の腫れや、痛み、ときに軽い発熱がみられることがありますが、大抵は1～2日で消失します。

これまでは、過去にこのワクチンを受けたことのある人は、強い副反応が出る恐れがあるということで2回目の接種はできませんでしたが、今後は、1回目の接種から5年以上経過して効果が低下してきたと考えられる人については、2回目の接種が可能となります。

ワクチン接種の際はかかりつけの医師によくご相談ください。